

# ながつま昭衆議院選候補から推薦依頼がありました

## 【ながつま昭氏推薦のお願い】

前回の衆議院選挙はながつま昭を推薦頂き、誠にありがとうございました。

丁度、1年が過ぎましたが、解散は来年中にあるなどという話しも聞こえてきます。

そこで再度、チャレンジをするながつま昭さんより、推薦の依頼があり、私も是非、ながつま昭さんに推薦を与えたく、皆様をお願い申し上げます。

私は、ながつま昭さんは、都民の会が推薦するにふさわしい候補者だと確信は昨年来、変わっておりません。宜しく、ご検討の程、お願い申し上げます。

平成9年9月9日

平成維新東京5区エリアマネージャー

治田桂四郎

## 【長妻昭の政策理念・平成9年版】

### ■政策骨子 「横並び」から「自由」へ

日本は、あらゆる分野に渡って政府の規制が網の目のように張り巡らされている。その規制は新規参入障壁、全国同規格維持、情報隠蔽を目的としている。

国の政策を大転換して、新規参入促進、地方主権、情報公開など「横並び」から「自由」へ日本は進むべきである。

そのためには「日本の未来を官僚の手から私たちの手に取り戻す」ことが必要

現在、日本では政策の重要決定は、利権を追求する一部の国民と手を結んだ官僚の主導で進められ、一般国民の声を代弁するはずの政治が機能していない。それが、国地方合わせて500兆円という国家予算の7倍以上の借金が膨らむ原因だ。

なぜ、政治家は官僚に引きづられてしまうのか。それは政治家の誕生に官僚が深く貢献しているからに他ならない。選挙の際に官僚の影響力がある利権団体から、政治家が多大の支援を受けているからである。

政治に本来の役割を取り戻させるために、私は、官僚及び官僚の支配下に置かれる利権集団からの一切の支援を受けず、理念・政策を訴えて選挙に臨みます。そして議席を獲得した際には、次の6つの政策実現に全力で取り組むことを約束致します。

### □1. 「密室 から 公開 へ」

安全保障、警察の捜査情報など一部の例外を除き、国に「例外なき情報公開制度」を確立する。その情報を国民に開示するかどうかの判断は、官僚ではなく、裁判所に委ねる。

### □2. 「結果平等 から 機会平等 へ」

日本では、市場参入規制によって、倒産を防ぎ、既存業者の利益の結果の平等を確保することが、官僚の主要な業務となっている。

この参入規制を撤廃し、結果の平等より、むしろ「機会の平等」＝だれでも市場に参入でき、その後の業績は企業努力に任せる＝を確保する。

同時に、競争ルールを確立し厳守させるための司法制度の整備が重要。

### □3. 「中央集権 から 地方主権 へ」

霞ヶ関が全国画一化を目的として、全国津々浦々の行政にまで、口を出し、金（補助金）を出す現在の手法を改め、地方独自の行政を認める。

### □4. 「官営 から 民営 へ」

官の仕事の中で民営化できるものは民営化に踏切り、官は防衛、外交、全国標準、司法など民になじまない業務だけを残す。特殊法人、公益法人なども同様。

それぞれの分野で民営化のプログラムを策定し、コスト削減とともにサービスの質の向上を目指す。本来、官よりも民に任せの方がサービスの質は向上する。

### □5. 「利権重視 から 国民重視 へ」

世界一の公共事業大国に象徴される、国民のニーズより政治家、官僚のニーズを優先させる国のしくみの抜本的転換。

### □6. 「一国平和 から 世界貢献 へ」

一国の平和だけを追求するのではなく、より世界に人的、技術的貢献を進める。

外交も従来の「日本にとって損か特か」の価値基準ではなく、「世界に貢献できるか、否か」の価値基準を持つ。安全保障政策に関してもオープンな議論を始める。

## 【ながつま昭のプロフィール】

○昭和35年6月14日 練馬区に生まれる

○練馬区立開進第二小、中学校卒業

○都立練馬高校卒業

○慶應義塾大学法学部法律学科卒業

○日本電気入社（営業官公庁担当）

○日経BP社「日経ビジネス」誌記者

（行政・金融 担当）

○平成維新の会にて参議院比例選挙区立候補

○民主党公認で衆議院選挙立候補

（3万3480票で惜敗）

□家族：妻、三男

□座右の銘：至誠天に通ず